

農作業の効率化や生産性の向上を目指し、スマート農業の取り組みが全国各地で進んでいます。県央振興局管内でも勉強会・研修会などを開催し、スマート農業の技術・経営支援を行っています。

【事例1】環境制御技術の導入

加温機、炭酸ガス発生装置、自動換気装置などの機器を環境制御装置でコントロールし、炭酸ガス濃度や温度、湿度等を調整することで、植物の光合成の能力を最大限に引き出す技術です。

令和6年度は、施設園芸農家31戸（いちご、きく等）が、データを収集・分析し、単収向上に取り組んでいます。新規就農したいちご農家が、1作目で、部会上位の単収成績をあげた事例もあります。



環境制御装置



勉強会の様子

【事例2】AI花き自動栽培システムの現地実証

キクとトルコギキョウを対象とした「AIによる自動栽培システム」が長崎県農林技術開発センターで開発されました。このシステムは、画像解析や生育を診断・予測しながら、それを基に環境制御を行うことで生育・開花をコントロールすることができます。管内では、令和6年10月から現地実証を始めており、省力化、高品質化、単収向上につながる技術として期待されています。



制御機器設置の様子

【事例3】発情発見機器の導入

牛の頸部に機器を装着し、活動データを常時収集・分析することで、発情兆候や授精適期が通知されます。9月末の研修会では、実証農家6戸が参加する中、機器活用による受胎率向上技術の検討や他県の優良事例について情報提供を行いました。現在、県央地域では14戸が導入しており、分娩間隔短縮による経営改善に役立てられています。



研修会の様子



発情発見装置装着牛

10月施行!!スマート農業技術活用促進法



スマート農業
技術活用促進法
について



先端技術を用いた営農を後押しする「スマート農業技術活用促進法」が本年10月1日に施行されました。生産者が導入する技術に合わせて栽培方法を見直す計画を国が認定する場合に、融資や特別償却の優遇措置並びに関連する事業へ優先的に採択される見込みです。

詳しくは農林水産省のHPをご覧ください。